

令和元年度第2回医学情報センター貴重書展示

江戸時代の

西洋医学

資料に見る蘭学としての医学

令和元年 7月2日(火)~9月30日(月)

横浜市立大学医学情報センター1階



伝統と革新の、その先へ
1928 - 2028

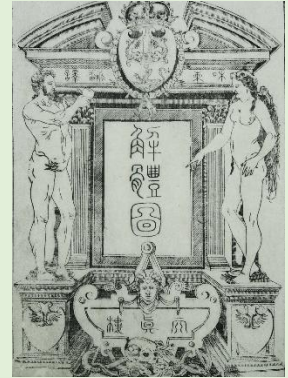
江戸時代、鎖国政策の中でもオランダ（阿蘭陀）だけが通商を幕府より許されたため、西洋の学問は、オランダ人またはオランダ語を介して受け入れられ、蘭学と呼ばれました。蘭学の担い手の多くは医者であり、日本最初の西洋医学書の翻訳書『解体新書』の出版(1774)を契機に、オランダ語医書の日本語翻訳は相次いで行われ、これが西洋医学の知識の普及に大きな力となりました。

【展示資料】

解体新書 4巻首1巻5冊

(独) 闕児武思 [Kulmus]原著；杉田玄白 訳
中川淳庵 校 小野田直武田画
東武 須原屋市兵衛 安永3 (1774) 刊

ドイツ人医師の Johann Adam Kulmus の医学書『Anatomische Tabellen』のオランダ語訳である『Ontleedkundige Tafelen』(「ターヘル・アナトミア」)を前野良沢、杉田玄白等が翻訳した図書。

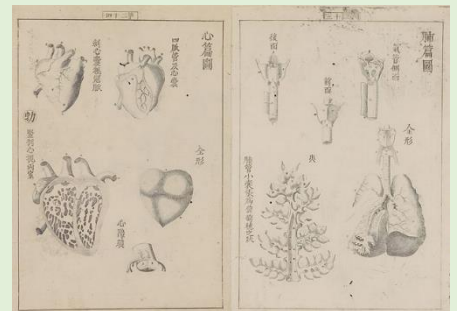


[(重訂) 解体新書 銅板全圖]

(独) 闕児武思 [Kulmus]原画；南 [小柿] 寧一画
中伊三郎鏤刻 題簽欠落

大槻玄沢が師の杉田玄白より「解体新書」の原典を翻訳・重訂するよう依頼され刊行した「重訂解体新書」の図版。

※中伊三郎は江戸後期の銅板画家。



遠西医方名物考 36巻36冊

宇田川 [玄真] (榛齋) 訳述 宇田川榕菴侯校補
江戸 青藜閣須原屋伊八 文政5 (1882) 序刊

江戸時代に海外から持ち込まれた西洋の薬品、薬物をいろは順に配列し、産地・形状・調剤・薬効・使用法について記した書。

※著者である宇田川玄真・榕菴はともに蘭方医で津山藩医。

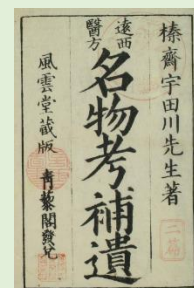
のちに幕府天文方で蕃書和解御用をつとめた。



遠西医方名物考補遺 9巻9冊

宇田川 [玄真] (榛齋) 訳述 宇田川榕菴校補
江戸 青藜閣須原屋伊八 天保6 (1835) 序刊

『遠西医方名物考』の補遺編。元素編があり、酸素・窒素・炭素・水素などに関する記述がある



【参考文献】

- ・横浜市立大学医学情報センター古醫書目録/大島智夫編
横浜市立大学医学情報センター, 1998.10